

2015.2.7



## “ハ短調の世界” — ハ短調の名曲を探る



### プログラム

“調性”を特集するシリーズの第5回目は、ハ短調で書かれた名曲を集めてお聴きいただきます。

ピアノ・ソナタ第32番は、ベートーヴェン最後のピアノ・ソナタで、1822年、52歳の時に完成されました。自由なソナタ形式による厳しくも情熱的な第1楽章と美しい主題と5つの変奏曲からなる第2楽章で構成され、これまで書き上げて来たピアノ・ソナタの要素がひとつに凝縮されたような傑作です。ラフマニノフのピアノ協奏曲第2番は、1901年28歳の時に完成、ラフマニノフ自身のピアノで初演され大成功を収めました。力強いダイナミックなピアノイズム、ロマンティック極まりない豊かな抒情性を持った20世紀のピアノ協奏曲を代表する名曲です。モーツァルトのピアノ協奏曲第24番は、1786年の作品。27曲あるピアノ協奏曲の中でたった2曲書かれた短調の作品のひとつで、モーツァルトのピアノ協奏曲の中では最も編成が大きく、管弦楽も充実。劇的で悲痛な感情が最後まで支配していて、同じ短調の20番とは、また違った趣を持っています。“最もベートーヴェン的な作品”とも言われる名作です。ブルックナーの交響曲第1番は、1866年に完成。ブルックナーが最初に番号を付けた交響曲です。作曲者自身が“生意気なわんぱく小僧”と名付けたと言われ、若々しい活力と情熱は独特の魅力を放っています。ベートーヴェンの第5番、ブラームスの第1番、マーラーの第2番等の名曲を外して、今回はあえてこの作品を選びました。演奏される機会は決して多くはありませんが、ブルックナーを知る上でも重要な佳曲です。

今回は、やや渋めのハ短調の名曲をたっぷりお聴きください。

\*\*\*\*\*

#### ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン (1770~1827): ピアノ・ソナタ第32番ハ短調op.111 ~ 第1楽章、第2楽章から

ウイルフヘルム・ケンブ (ピアノ)

(1978.9.2 ヘルシンキ、フィンランディアホールでのLive)

#### セルゲイ・ラフマニノフ (1873~1943): ピアノ協奏曲第2番ハ短調op.18

ジヨルジ・シフラ (ピアノ)

レイモンド・レパード指揮BBC交響楽団

(1974.11. マンチエスターでのLive)

\*\*\* 休憩 \*\*\*

#### ヴォルフガング・アマテウス・モーツァルト (1756~1791): ピアノ協奏曲第24番ハ短調K.491 ~ 第1楽章、第3楽章

ロベール・カサドシュ (ピアノ)

ベルナルト・ハイティンク指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

(1971.9.15 ベルリン・フィルハーモニーホールでのLive)

#### アントン・ブルックナー (1824~1896): 交響曲第1番ハ短調 ~ 第1楽章から、第2楽章から、第3楽章、第4楽章

小澤征爾指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

(2009.1.31 ベルリン・フィルハーモニーホールでのLive)